

庁内検討グループについて

市内部における新市庁舎整備に係る機能等の検討グループの検討状況(平成23年度)

1 目的 新市庁舎整備に伴い、求められる基本的機能等について具体的に検討し、基本構想策定につなげる。

2 検討期間 平成23年11月～平成24年3月

3 検討内容

(1)新市庁舎に配置すべき部署に関する検討グループ

(行政体制整備室、財産活用課ほか3課)

検討テーマ

・効率的でコンパクトな庁舎を実現するために新庁舎で実現すべき取組(新庁舎に配置すべき所属・所属間の緊密度)の検討

検討状況

・本庁舎にあるべき部署を1つの建物内に配置すると想定した場合の部署等の配置構成(階層構成)の基本的な考え方を検討した。

(2)ワンストップサービスなど窓口の配置、システムに関する検討グループ

(市民課、収納課ほか12課)

検討テーマ

・新庁舎でワンストップサービスを実現するための必要事項の検討

検討状況

・新庁舎における窓口サービスの考え方及び総合窓口のあり方について検討した。(例)総合窓口の設置、フロアマネージャーの配置、サインの工夫

(3)防災機能に関する検討グループ

(防災危機管理室、地域保健課ほか2課)

検討テーマ

・市庁舎の防災・災害対応拠点としての新市庁舎に期待される機能の検討

検討状況

・現在の防災に関する機能の現状をふまえ、新庁舎に求める機能(本部機能、避難所機能、備蓄機能、情報管理機能など)を検討した。

- (4)市民交流・活動支援・市政情報発信・受信に関する検討グループ
(自治振興課、広報広聴課、市民協働推進室ほか3課)

検討テーマ

- ・市民と連携する(つながる)市役所として新庁舎に期待される機能の検討

検討状況

- ・「市民が行きたくなる市役所」をめざし、施設の魅力を高めるために「情報を発信できる・受け取れる場所」、「活動しやすい場所」、「交流できる場所」、「便利な場所」として想定される機能等を検討した。

- (5)車両動線・駐車場並びに公園機能に関する検討グループ
(交通企画課、土木総務課ほか4課)

検討テーマ

- ・新庁舎の交通計画、公園機能の確保等について基本的な考え方の検討

検討状況

- ・各配置パターンについて駐車場・駐輪場の配置、公共交通機関の利便性、公園配置などから検討を行った。

公会堂について

① 公会堂の現状（沿革）

- 公会堂の建設経過
- 昭和5年：（旧）公会堂落成（栄町）
- 昭和20年：原爆投下による2次火災により（旧）公会堂焼失
- 昭和30年：長崎国際文化センター建設委員会 発足
- 昭和36年：長崎市公会堂（現公会堂）起工
- 昭和37年：完成（1,747席）

② 公会堂の現状（検討経緯）

- 公会堂に関する検討経緯等
- 平成14年 長崎市公会堂存廃問題検討懇話会設置
- 平成16年1月 商工会議所より「長崎市公会堂及び周辺地域の今後のあり方に関する要望書」
- 平成16年3月 公会堂存廃問題懇話会報告書・提言
（現在地への公会堂の存続、1,000～1,200席程度の中ホールへの改良等を提言）
- 平成21年度耐震診断の実施
- 平成22年度 公共施設利活用特別委員会
- 平成22年度 大型公共施設更新計画検討会議（庁内）
- 平成23年2月 公会堂の耐震化方針等を表明
- 平成23年度 長崎市公会堂等文化施設あり方検討委員会設置

③公会堂の課題

- 建物の耐震性の不足
 - ・Is値: 0.55~2.39
- 建物の老朽化
 - ・築後、約50年を経過し、老朽化が進んでいる
- 設備の老朽化
 - ・冷房用冷凍機・空調機、舞台装置、照明設備・音響設備などの老朽化

これらのことから補強は困難であり全体的な文化施設のあり方を含め「機能の確保の方法について検討する」ことが適当